

トキと共生する里地づくり取組地域【宮城県登米市】

【地域の概要】



【地域名】宮城県登米市

【自然環境等】

宮城県の北東部に位置し、西部が丘陵地帯、東北部が山間地帯、その間を北上川等が貫流し、豊かな水環境から肥沃な「登米耕土」を形成している。伊豆沼・内沼はラムサール条約登録湿地となっており、「水の里」とも呼ばれている。

日本に飛来するガン類、白鳥などの渡り鳥の約8割が伊豆沼周辺で越冬し、鳥類の生息環境として良好な環境であると考えられる。

面積：53,612ha(田：15,700ha、畑：1,920ha、林野：22,163ha)

人口：76,912人(R3.3月末)

気候：内陸性気候 平均気温 12.3℃

年間降水量1,027mm

年間日照時間1,950.1h



広がる田園



FSC森林認証森林

【取組内容及び取組方針】

本市で取り組む環境保全型農業は、今後もさらなる発展を目指し、環境と調和のとれた生産と消費を基本的な理念として推進していくものであるが、トキの生育に最適な環境づくりの基本的ノウハウが不足しており、先進的な自治体や専門的な知識をもった方の協力が必要である。

採餌場所や営巣場所の面的な確保は十分であると思われるが、冬場における採餌場所の確保や他の鳥類等との共存など、様々な知見での状況分析も必要であると考ええる。



登米市の循環型農業



登米市が発祥の地 環境保全米



【取組を通じて目指す地域の姿】

これまで取り組んできた持続可能な環境保全型農業や森林整備などは、それ自体がトキを迎え入れる土壌づくりとなっている。今日、トキと共生する里地づくりを新たに目指すことで、更なる高みへステップアップするものであり、トキが飛来する日を目指し、市民とともに豊かな農村環境を後世につなぐ地域づくりを推進する。



今を共に生きる



登米能 後世へつなぐ



鶺鴒波洗堰



トキ どうか「おかえりトメ」